

科目名	言語教育学特講	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	2016年から2018年の間に発行された『日本語教育』に掲載された論文のうち約4割において統計手法が用いられている。自分自身の研究で統計手法を用いなくても、統計手法が用いられた先行研究を理解するために統計手法の知識は重要である。そこで、本科目では、言語教育学における方法論のうち、統計分析を用いた手法を学ぶ。前期は、基本的な統計手法について学び、できるだけ多くの研究例を理解する。後期は、実際のデータを用いて分析を行い、報告文書を書く。そして、最終的に、統計手法を用いた研究をデザインすることを学ぶ。 以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力、問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 言語教育学の方法論の基礎となる理論，理念に関わる知識を理解し，応用する力を修得する。 【行動目標（SBOs）】 - 基本的な統計手法について説明することができる。 - 統計手法を用いた研究事例を正しい理解に基づいて説明することができる。 - データを分析し，結果を正しく解釈し，報告文書を作成することができる。 - 目的に即した統計手法を選択し，その手法を用いた研究をデザインすることができる。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 - manaba folio上で，レポートのピア・レスポンス等，受講者同士の協働学習を行う。 - manaba folioを通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。 - manaba folioを利用し，ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。 - 図書館，インターネットで関連論文の検索を行う。 【学修方略（LS）と学修時間】 （自習）教材と関連文献を熟読する。15時間 （自主研究）課題に関し，事例研究を実施する。10時間 （レポート作成）レポートを執筆する。10時間 （ディベート）他の受講者のレポートを読み，テーマに関し理解を深める。5時間 （ディベート）他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5時間 ＊学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間		
スケジュール	<前期> - レポート課題1 締切：6月15日（初稿） （最終稿提出期限：学事歴で定められた日） - レポート課題2 締切：8月15日（初稿） （最終稿提出期限：学事歴で定められた日） <後期> - レポート課題1 締切：10月15日（初稿） （最終稿提出期限：学事歴で定められた日） - レポート課題2 締切：12月15日（初稿） （最終稿提出期限：学事歴で定められた日）		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	形式（構成，引用のし方，適切な表現），内容（論旨の明快さ，独創性，課題把握の適切性） ＊後期のレポート課題2は最終試験として初稿で評価する。 ＊その他のレポートは，最終稿にて評価する。
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度，レポート添削への対応等
履修者への要望	- 教師によるフィードバック，必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。 - 無断引用，不適切な引用がなされた場合は，不正行為とみなされ，失格となる場合がある。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 島田めぐみ・野口裕之 教材名： 『日本語教育のためのはじめての統計分析』（ひつじ書房） ISBN: 978-4-89476-862-8 1,600 円+税
	日本語教育専攻の大学院生を主な対象者として書かれた統計分析の入門書である。日本語教育分野における研究例を取り上げているが、日本語教育分野に限定した内容ではない。数式を使わずに説明しているため、統計初心者にとっても理解しやすい。
参考図書	竹内理・水本篤『外国語教育ハンドブック-研究手法のより良い理解のために 改定版』（松柏社） ISBN: 978-4775402016 3,500 円+税
履修上のポイント	統計に馴染みのない履修者にとって書籍だけで学ぶのは難しいかもしれない。そのため、基本教材の内容を講義するオンデマンド教材数本を提供するので、理解を深めるために視聴をすることを勧める。オンデマンド教材へのアクセス方法は、授業開始後、Manaba folio を通して知らせる。最初は難しくても、オンデマンド教材、基本教材、関連論文を視聴・読解することで、必ず理解が深まるので、根気よく学んでほしい。 また、ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、研究手法に関する理解を深めること。
レポート課題 1	相関分析や t 検定を用いた研究に関する論文を 1 編あるいは 2 編読み、十分理解した上で要約する。その際、学んだこと、疑問点などの考察を加えること。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 言語や言語教育以外の論文でも構わない。要約する論文の URL あるいは PDF ファイルも提出すること。
レポート課題 2	カイ二乗検定や分散分析を用いた研究に関する論文を 1 編あるいは 2 編読み、十分理解した上で要約する。その際、学んだこと、疑問点などの考察を加えること。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 言語や言語教育以外の論文でも構わない。要約する論文の URL あるいは PDF ファイルも提出すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 島田めぐみ・野口裕之 教材名： 『統計で転ばぬ先の杖』（ひつじ書房） ISBN: 978-4-8234-1028-4 1,400 円+税
	統計分析の結果を報告する際に犯しやすい誤りを中心に上げ、解説されている。グラフや表の作成、統計記号の書き方、各種検定の結果報告の仕方など、統計に関する書籍にはあまり記載されていない内容が含まれる。また、最近報告が求められる効果量についてもわかりやすく解説されている。
参考図書	中野博幸・田中敏『フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析』（技術評論社） ISBN: 978-4-7741-5019-2 1,880 円+税
履修上のポイント	無料で提供されている統計ソフト js-STAR を用いて、基本教材 1 で学んだ統計手法を実際に用いて計算する。さらに、基本教材 2 の内容を理解し、適切に報告文書を作成する。js-STAR の使い方、結果の解釈の仕方について、オンデマンド教材を提供するので、必ず視聴してから課題に取り組んでほしい。オンデマンド教材へのアクセス方法は、授業開始後、manaba folio を通して知らせる。 また、ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、研究手法に関する理解を深めること。
レポート課題 1	相関分析、 t 検定、カイ二乗検定それぞれについて、統計ソフト（js-STAR）で計算し、その報告文書を書く。相関分析、 t 検定、カイ二乗検定それぞれのデータは与えられたものを用いる。 留意点： 計算に用いるデータは、manaba folio を通して提示する。また、文字数の制限は設定しないので、適切な情報量を判断すること。
レポート課題 2	自分の興味のあるテーマを設定し、研究目的、データ収集の方法、統計分析の方法を含めた実験計画を立てる。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 言語教育学あるいは言語学に関するテーマとすること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章，第 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章，第 4 章
第 3 回	オンデマンド教材の視聴，論文の講読
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 6 章
第 10 回	オンデマンド教材の視聴，論文の講読
第 11 回	オンデマンド教材の視聴，論文の講読
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章～第 4 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 5 章～第 8 章
第 3 回	オンデマンド教材の視聴
第 4 回	データの計算
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 9 章，第 10 章
第 10 回	オンデマンド教材の視聴
第 11 回	実験計画の検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成